

おりじん

[O·R·I·J·I·N]

おりじんを刷新しました！

もっと生活に密着した
役立つ情報をお届けいたします。

2016年 春号

発行 (株)四季工房「おりじん」編集室

〒963-0115 郡山市南二丁目84番地

TEL.024-937-6351 FAX.024-937-6341

http://www.sikikobo.co.jp



築40年の平屋の家に住んでいた佐藤さんご一家。大きな揺れに見舞われた東日本大震災で家が半壊状態に。とても怖い思いをし、二日も早く安心・安全な暮らしをしたいと建替えをすることにしました。しかし家を建てることは決めたものの、どのような家を建てるかは全くの白紙状態。「まず展示場を見に行くことにしました。そしてたまたま最初に覗いたのが四季工房さんの展示場だったんです。ドアを開けた瞬間、木の香りがして、なんていい香りなんだろう」と感動しました。その上漆喰や国産の木を使っているのに、「そんなに高くないですよ」と営業の方から聞き(笑)、ほとんど決めていた工務店を断って四季工房さんで家を建てることにしました」と娘の恵子さん。まさに「目惚れだったんです」。

(次ページへ続く)

震災を機に建替えを決意
一目惚れした四季工房の家

毎日幸せに
楽しく
住んでいます

仙台市・佐藤様ご家族

「薪ストーブの集い」に参加しませんか！

薪ストーブをご愛用の皆様。この機会に「薪ストーブの集い」へ入会してみませんか？
薪をできるだけ安価で安定的に確保したい方や、薪ストーブの焚き方に不安のある方はオススメです。



《お申込み・お問合せ先》
株式会社四季工房
薪ストーブの集い(仙台・平田共通)
担当:瀬谷(平田加工場)
TEL.0247-55-3169 FAX.0247-55-3280
e-mail:m-seya@sikikobo.co.jp
電話受付時間:平日8:30~16:30(水曜日を除く)



サークル仲間との交流が楽しい——参加者の声

「薪ストーブの集い」に参加して十年が経ちました。初めは、薪を安く手に入れることだけが目的でしたが、参加年数を重ねる毎に、薪ストーブのことは元より、住まいに関する疑問や楽しみ方など、一人では知り得ない多種多様な情報共有をサークル員同士で行えるようになりました。今では非常に有り難く思い、薪づくりが趣味かのように参加しています。

以前、年齢や体力的な理由で参加すると迷惑になるのでは…とお話しされ、参加を躊躇されていたOBさんが居りましたが、そのようなことは全くありません。加工場の社員さんや一緒に参加されている方々も親切で、老若男女どなたでも参加できます。参加すると四季工房の家での薪ストーブの生活が、さらに楽しくなるといいますよ。

「薪ストーブの集い」世話人 坂本 強

農園直送の有機野菜がおいしい

風の香 fuiu café



カラダに優しい
野菜がおいしいッ！



採れたて野菜をバランスよく使用した食事のメニューと、天然酵母の手づくりパンが並ぶ「fuiu Café」。3月の豪華月替わりメニューは、お客様からのリクエストにお応えして、昨年大好評だった「手まり寿司&おなりさん」です。生ハムとキウイフルーツの意外な組合せの手まり寿司をお楽しみください。春を感じさせる小鉢もついています。

時には農園から仕入れた色鮮やかな野菜や珍しい野菜に出合うことも。メニューで使用している野菜で気になるものがあれば、気軽にスタッフにお聞きください。Tea timeには、シフォンケーキやチーズケーキなどのスイーツメニューも。春のひと時をぜひ「fuiu Café」でゆったりとお過ごしください。みなさまのご来店をお待ちしています！

風の香 fuiu café

〒963-0115 郡山市南二丁目84番地 TEL.024-947-1711

営業時間 11:00~18:00(ランチタイムは15:00まで)

定休日 水曜日

「おりじん」は年3回発行。次号もお楽しみに！

「おりじん」のご意見・ご感想をお気軽にお寄せください。お寄せいただいた方全員に記念品をお送りします。「おりじん」は皆様の声をいただきながら、さらに内容を充実させてまいります。

未来の子供に安心して食べさせられるパンを！

石窯パン工房 Panterrace



「パンテラス」は昨年5月にオープンした石窯で焼く本格的なパンのお店です。店内は四季工房プロデュースのお店らしく木質感のあるシックな雰囲気、焼き立てのパンの香ばしさが漂っています。一番人気は塩パン。お肉がゴロゴロ入ったカレーパンも大人気です。他にも毎月新商品が登場し、常時100種類以上のパンをご用意しています。新登場の「あんぱんセット」は8種類のあんぱんの詰め合わせで、お土産にもオススメ。店内では焼き立てのパンとコーヒー(無料)をお召し上がりいただけるイートインコーナーもあります。お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください！

石窯パン工房 パンテラス

〒321-0151 栃木県宇都宮市西川田町40-8 TEL.028-615-7831

営業時間 7:00~19:00

定休日 火曜日



広がり間取り・ エアパス工法のW効果 その住み心地にぞっこん

以前の家は、農家らしく座敷の続き間のある家。平屋で45坪と広かったものの使い勝手が悪く、「常々遊んでいる部屋はいらないと思っていました。お掃除し易いコンパクトな家にしたかった。この家は同じ平屋でも空間のつくり方が全然違います。10坪近く小さくなっているのに仕切っていない分、広々としていて息苦しくない！」と恵子さん。お母様のキヨジさんも「家の端から端まで使えるのが何よりだね！」とニッコリ。また以前の家は、零下の日には室内も5〜6℃しかなく、とても寒くて茶の間と廊下の温度差で身体への負担が大きかったとキヨジさんは当時を振り返ります。「今では外が零下でも家の中は最低12〜13℃あります。暖かくて温度差のないのが「番！」と恵子さん。お父様の健「さんも、住み心地にぞっこん」だそうです。



量数きの玄関は料亭のようで家族みんなの一番のお気に入り。

家を訪れた方がまず驚かれるのが、玄関の畳敷き。そして佐藤さん「二家の」番のお気に入りです。「玄関を、畳にするなんて私たちでは全く考えられなかった。野崎社長の提案で畳敷きにし、窓に障子をつけました。その障子を開けると北の庭を眺められるんです。料亭みたいで本当に素晴らしいと思います」と恵子さん。

また本棚や洗面所の棚は、現場で使う方を考えながら大工さんが提案してくれたのがとても良かったとのこと。今は虜になっているという薪ストーブも、「最初は面倒そうだから入れるつもりは全然なかったんです。でも提案して頂いて良かった。すごくいい！夜寝る時も薪を一本余計に入れておく、朝暖房入れなくても暖かい」と満悦の様子。

古きよきものが インテリアのアクセントに

佐藤邸には、健さんのお祖父様の代からの品々が所々に置かれ、インテリアのアクセントになっています。「要は、仙台筆筒、インテリアはどうしたらいいかなと思ったり、家に、仙台筆筒があった。あつ、これを



上：インテリアの要、仙台筆筒。
下：ウスは郵便受けに。



ウッドデッキは、庭を眺めながら近所のお友達とお茶を飲むお気に入りの場所。

生かそう！と思ったんです」と恵子さん。仙台筆筒は、健さんのお母様「愛用のもの。現在花器として使っている、火鉢は、なんと健さんのお祖父様の代「大正末期」に火鉢として実際に使っていたもので、倉庫に眠っていたのを引っ張り出してきたものだそう。玄関脇に置いた、ウスの郵便受けは、白洲正子さんの自邸「武相荘」でウスを郵便入れにしているのを見てそれを参考にしたとか。

恵子さんならではのセンスが随所に光る佐藤邸。とはいえ、骨董が趣味という訳ではないのだそう。「こういうのは単品であつても素敵だともあまり思わないんですが、例えば、火鉢は、この家に置いてお花を入れるから素敵なんです。そういう取り合わせなんだろうなと思っています。本物の家だから本物同士、お互いを高めあつて調和していくものなのかもしれませんね」と恵子さんは語ります。



季節に合わせて 暮らしを楽しむ家

リビングに入るとすぐ目に飛び込んてくる「ハンギングチェア」も、四季工房の梁の存在を知って取り入れることに。取り付ける紐も、もやい網を3色用意し季節によって座布団とコーディネートする。こだわりよう。ソファも冬は薪ストーブに向けて置き、それ以外の時は庭に向けて置くことで、季節感を楽しんでいます。

温泉に泊まりに行くことも好きだった恵子さん。しかし今は家以上の宿がどこにもなく、ガッカリするので泊まりに行かなくなったのだとか。近所の方にも佐藤邸は好評で「立派な家で負けたな」とつぶやかれる方もいらつしたそう（笑）。「確かに自分の家が一番いいと思いますよね」と恵子さんは嬉しそう。「暮らしを楽しむ」という言葉がびつたりの佐藤邸でした。

（リポート／二村）

ハンギングチェアは恵子さんの特等席。テレビも読書もここで楽しめます。

おりじん 2016年 春号 2



代表メッセージ
株式会社四季工房
代表取締役
野崎 進

私達は、このかけがえのない地球を守る為に 何ができるのだろうか？——家づくりから地球環境を考える

不気味な 気候変動が各地に



昨年の12月、196か国の代表が集まって行われた「気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）」がパリ協定に合意して終了しました。新たな合意では、地球の気温上昇を産業革命以前より2℃未満に抑え、さらには1.5℃以下に抑える為の努力をすることにも言及されました。画期的！と称賛される一方で、事前に提出された目標案では、2.7〜3.5℃上昇するという、合意には程遠いものになっていたようです。既に0.85℃上昇した気温を2℃未満に抑える為には、なんと今世紀末には化石燃料由来のCO2を出さない世界をつくつていかなくてはいけない。0.85℃上昇した今でさえ、百年に「度」と言われる記録的な災害が増えているのに、2℃も上昇したら…。現在の私たちの生活の結果が、自分たちではなく、未来の子供たちが大人になった時に大災害をもたらす——。本当に身につまされる思いがします。

そういう中、住宅メーカーは、「スマートハウス」というIT技術を使って家庭内のエネルギー消費量を最適に制御する住宅を盛んに販売しています。太陽光

発電システムや蓄電池などを搭載し、エネルギーを「見える化」することが前提となります。もちろん電気エネルギーをつくり出し蓄える住宅は望ましいことだと思えます。しかし、低炭素社会をつくるべくには総合的な取り組みが必要であり、私たち四季工房は、地域工務店であることを活かした取り組みをまず行つていかなくてはいいと考えています。

まずエネルギー消費を 抑えた家づくりを



我が社では、2006年から木材の冬期伐採、天然乾燥を徹底して行っています。これは木材の品質を高める為であると共に、化石燃料の使用削減にも大きく貢献しています。以前行った試算では、「人工乾燥材」ではなく、「天然乾燥材」を使うことで、1棟当たり約12tのCO2削減につながることが分かりました。これはなんと1世帯の家庭で排出するCO2の約2年分にも相当します。また「輸入材」ではなく、「地域材」を使うことで、エネルギー消費量を約40分の1に抑えられるという試算もあります。そして工場生産ではなく、一棟棟職人が手仕事で家をつくることは、エネルギー

消費を抑えると共に、職人を守り育て、循環型の豊かな地域社会をつくることにつながっていると信じています。

また薪ストーブは、我が社では薪づくりサークルをつくることで薪を安価に手に入られるようにするなど、力を入れてお勧めしている暖房です。現在3000棟を超えるOBさんに対し、1000台近い薪ストーブを提供してきました。図（次頁）にもある通り、家庭からのCO2排出で暖房の占める割合は大きいのですが、その燃料を石油や石炭などの化石燃料からバイオマスである薪に代えれば、大きく減らすことができます。近年発表された研究結果によると、製造から廃棄までのトータルで、薪ストーブの温室効果ガス排出量は、灯油ストーブ



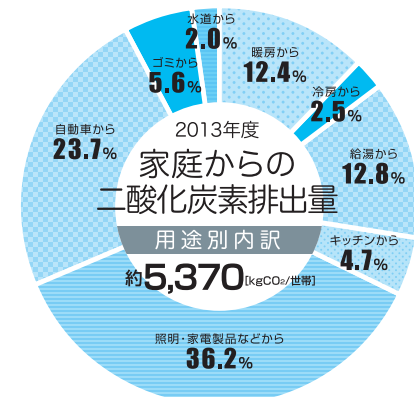
の約20分の1であることがわかりました（平成23年 木質バイオマスLCA／評価事業報告書）。薪ストーブを設置できるか否かは地域や土地の状況により変わってきますが、排気のおいがコントロールできるタイプも開発されてきているので、検証を進めながらこれからも積極的に勧めしていきたいと思っています。そして、家づくりに際して木を必ず植えてもらうこと（緑の回廊、微気候づくり）や、自転車を使いやすくする為に「サイクルポート」をプランに盛り込んで提案すること等に加え、ますます求められる「集まって暮らす」ことについても、より暮らしやすい二世帯住宅のあり方などをもっともつと追求していく必要があると思っています。

エネルギー消費を 抑えた暮らし



住宅が機械制御される時代になってきた今だからこそ、それに依存しすぎてはいけなさと考えています。真夏日が増える昨今、熱中症で倒れる人が増えています。これは冷房が効いた環境にいることで汗腺が働かなくなり、体温調節ができなくなったことも原因の一つにあるようです。

3 おりじん 2016年 春号



出典) 温室効果ガスインベントリオフィス

生活の中で冷暖房の使用を抑えていくことは、工夫次第でたくさん見つかります。例えば、二階建ての家の場合、通常二階に寝室を設けることが多いのですが、盛夏の1か月ぐらいは寝室を二階の畳の間に移すことや、冬の朝は一枚余計に服を着ることで暖房を低めに設定できるなどです。しかしこれは冷暖房の効率を高める省エネ型の住宅が大前提になることは言うまでもありません。ずっと取り組んできたエアパス工法も、最近間取りや窓の取り方で、まだまだその効率を高められることがわかってきました。それから何と言っても長寿命住宅のポイントには子や孫に愛される質の高い家をつくること。手入れしながら大事に使ってもらい「この家を残したい」と思ってもらえることが、日本の住宅寿命を延ばして子供・孫の世代が豊かに暮らせることにつながり、ひいては環境問題にも大きく貢献することになると信じています。これからも省エネブームなど関係なく人と環境にやさしい家づくりを貫いてまいります。

四季工房は、若手の職人が元気です！

日本の建築業界は、職人の高齢化が深刻です。とりわけ大工さんは10年後には半数以下になるという統計もあり、日本建築の大ピンチと言われています。

そんな中、四季工房では早くから若手大工の育成に力を入れ、現在合計26名(内左官見習いが1名)が活

躍中です。それにプラスして、左官屋さん、建具屋さん、塗装屋さん、電気屋さんなどの若手2代目の職人さん(親の後を継いで職人さんになっている方々)が多いのも大きな特徴です。この方々が次世代の四季工房を支えてくれる? いえいえそれどころか、日本の伝統工法を守り、育ててくれる

大きなパワーとなることでしょう。そんな若手職人さんが大集合するのが、「若手の会」の新年旅行です。これまで沖縄に3回連続で行っています。今回は、初日に平和祈念公園とひめゆりの塔を訪れ、皆で過去の大戦で悲惨な思いをされた沖縄の人々に思いを馳せました。



若手の会は、今年から宮城・福島・関東と三ブロックに分けて懇親会や秋の小旅行を実施し、輪を広げていきます。



初めての班編成での小旅行。「皆と仲良くなれました」

多くの若い女性が亡くなった「ひめゆりの塔」に献花をしました。



沖縄の海に向かって祈りを捧げているの? 感心感心と思ったら、スマホをいじっているの!

沖縄旅行に行っの感想

◆総勢53名が沖縄旅行を楽しみました! ◆

この若手の会旅行は、皆が集まって過ごす事に意義があります。同じ時間を共有する事で、家族のような強い絆と信頼関係を築いていけるからです。同じ時間、同じ場所を同じ世代が過ごし、業種、地域を越えて交流を深めており、楽しそうに笑顔で会話する姿は仕事仲間以上の家族のようでもありました。社長が考案された班編成の観光スタイルも大好評でした。進行者として未熟で至らない点が多くあった中、皆が旅行を満喫して無事に帰って来れたのは参加者の方々の協力と段取りをしてくれた社員の方々、そしてこの旅行を企画してくださった社長のおかげです。心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

大工育成塾生 國分 伸一

四季工房の技

匠の逸品

VOL.1

須賀川市・飛木邸

家具調オリジナルキッチン『KURIYA』のある暮らし

『KURIYA』はリビングの一部。大勢が集い楽しむ生活を満喫しています。

二世帯住宅の飛木邸。同居しているご両親に気兼ねすることなく知人らを招くことができるようにと考え、広々としたLDKを二階につくりました。「みんなが集まれる家」というのが希望で、今のスタイルになりました。普段からたくさんさんの友人が来てくれてとても賑やかですよ」と奥様。多い時には20名以上が集まるパーティーを催すという飛木邸の中心にあるのが、2015年度のグッドデザイン賞を受賞した四季工房の家具調オリジナルキッチン『KURIYA』です。

「アイランドキッチンはすごく抵抗があったんですが、使ってみると友達が来ても、一緒につくつて一緒に片づけて…がむしろ楽しくって」と奥様。「普通のキッチンに比べてみんなでやれるのがいい。パーティーの時は6人ぐらいキッチンの回りにいるかな。アイランドキッチンは、台所(キッチン)じゃなくて、リビングの二つになっているところが一番いいよね」とご主人。



アイランドの天板は作業台に。パンづくりの際も直接小麦粉を広げるのだそう。「片づけるのも簡単。使い勝手がすごくいい」と奥様は嬉しそう。



「新築して約3年半。家だけでなく、キッチンも色合いがだんだん変わってくるからいいよね」とご主人。カラマツの床もとても美しく色づいています。



バックカウンターは収納力大。20人もの来客時も自由に開けてもらい、一緒につくったり片づけたり。「収納場所も覚えてくれたんじゃないかな(笑)」と奥様。

また一般的に使い勝手が悪そうと言われるコンロの位置については「コンロは壁側で良かった。シンクの横にあると便利のようだけど、コンロがあるとザキッチンという感じになる。別々の方がスッキリしているし、アイランドが作業台にもなる」と力説するご主人。奥様も「煮込みをする時はむしろ奥で良かった」と付け加えます。

「息子たちが就職して離れ、大人同士の遊びというかアンバーサラー等は意識して楽しむようにしています。そしてそれができるのがこの家です」

『KURIYA』を中心として、家での生活を満喫という言葉がマッチする暮らし方をされている飛木さんご夫婦でした。

(リポート／二村)



家具調オリジナルキッチン

「KURIYA」

GOOD DESIGN AWARD 2015年度受賞

国産無垢材でつくり、自然塗料で仕上げた四季工房ならではのアイランドキッチン。調理器などお好みに合わせてカスタマイズできます。

- 国産広葉樹を使用
- 合板使用ゼロ
- ワゴンタイプ・引出しタイプなど機能性抜群(引出しはソフトクローズ付)

他社にマネのできない設計力が自慢です——設計士さんからの提案①

広がりの間取りを軸として、それぞれのライフスタイル・敷地条件を考慮し、永く住み継げるプランをご提案しています。

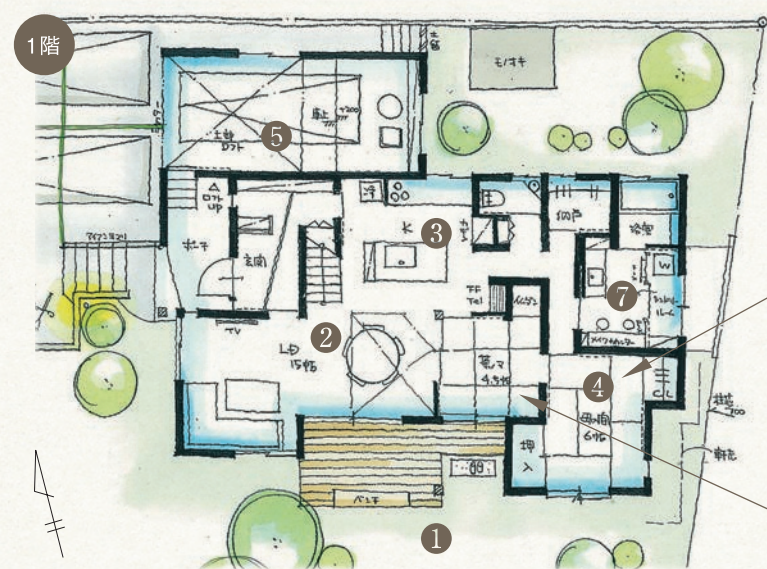
三世代で暮らす家 [H邸] ご家族6人(お母様・ご夫婦・娘さん3人) 44.4坪(1階:26.6坪 2階:17.8坪)

<H様のご要望>

- ①どこにいても陽の暖かさを感じられる家。
- ②家族全員が集まりくつろげるリビング。
- ③料理時に孤立しないキッチン。
- ④お母様が静かに過ごせる部屋。
(子供たちの生活リズムがバラバラになったため)
- ⑤ご主人の趣味の車を楽しめるガレージ。
- ⑥大きくなった娘さんに個室を。
- ⑦女性5人が使うメイクルームは広めに。

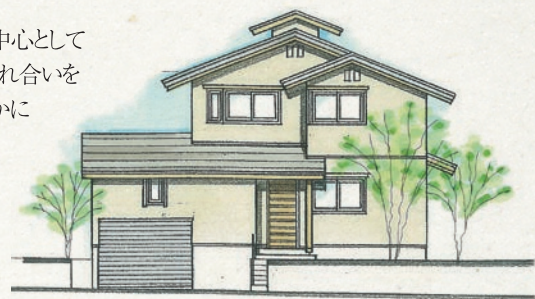
<設計上のポイント>

高低差がある敷地に、住まいとつながる
ロフト付のガレージを計画しました。
リビングと一体になった「茶の間」を中心として
廻れる動線とコーナーが、家族の触れ合いを
自然に増やすとともに、お母様が静かに
過ごせる空間をつくりだしています。

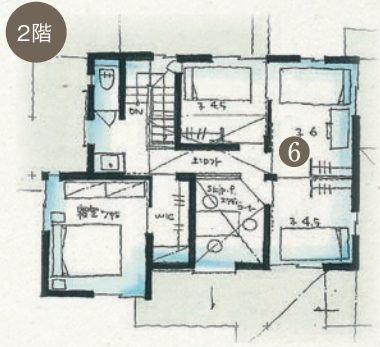


二階の載らない場所に「母の間」をつくることで、二階の音を気にせず静かに過ごすことができます。

茶の間はLDKと一体にしてつくり、日頃から使いやすく。また引戸を開めれば、母の間へのLDKからの音漏れを防ぎます。



西側



家族&友人が集う家 [Y邸] ご家族5人(ご夫婦・娘さん3人) 37.3坪(1階:19.6坪 2階:17.7坪)

<Y様のご要望>

- ①友人・留学生を招いて楽しく過ごせる広々リビング。
- ②玄関近くに子供たちのランドセルを収納できるスペースを。
- ③洗面・脱衣室は広めに(将来混み合いそう)。
- ④常にミシンを出しておけるスペース&材料の保管場所。
- ⑤寝室にウォークインクローゼット。
- ⑥来客用(留学生)の寝室。
- ⑦西側のアパートからの視線を避けたい。

多くの方が集うY邸。量の小上がりは、ベンチとして、また来客者の寝床として使うことも。

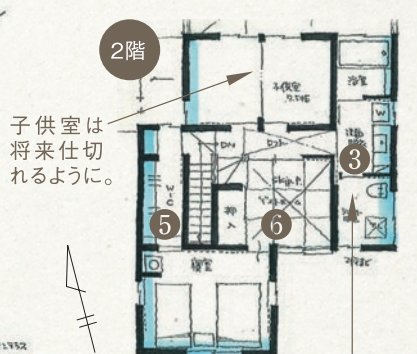
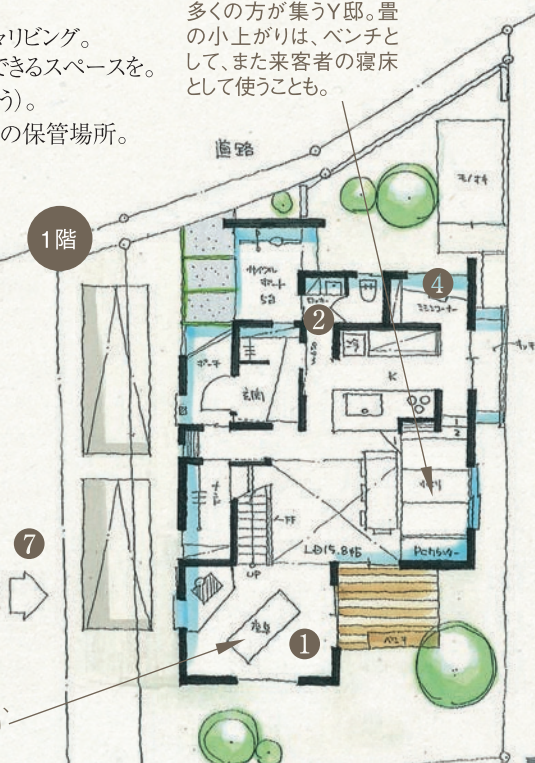
<設計上のポイント>

限られた敷地条件(面積や高さ制限)の中で、家族やゲストが集うLDKがゆったりと楽しい空間となるようお風呂やランドリールーム等の水廻りを2階に計画しました。

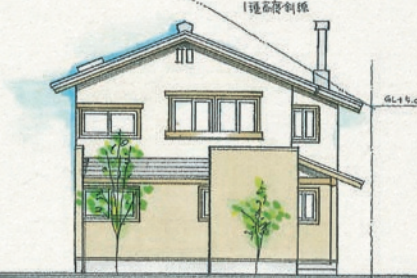
その他

- ・玄関～ロッカー～キッチンの生活動線
- ・アイランドキッチンとベンチ兼用の小上がりのコーナー
- ・吹抜け・スキップフロアを畳敷きのゲストルーム(押入付)として活用します。

LDKをL型にすることで、日差しが入りやすく広がりのあるLDKに。



水廻りを2階に持ってくることで1階に広々としたLDKを実現しました。



北側



生方さん(左)と、鈴木さん(右)。

四季工場の揺るぎない理念
新月伐採を見に行ってきました！
今年度も1年半後のお客様のために木を伐っています。



ドドドドッ、ドーン。12月8日、茨城県高萩市の八溝山系で杉の木が1本につき1分弱という速いスピードで、予め決めた方向に確実に切り倒されていきます。

伐採をしているのは、3年前に独立して会社を興した鈴木有司さん(32歳)とその従業員の生方龍也さん(27歳)。生方さんは以前工場のラインで働いていたそう、工場の仕事に比べてどうか？と聞くと、「自分の頭で考えて仕事が出来て楽しいです。太い木を決めた方向にきちんと倒せた時にやりがいを感じます」と答えてくれました。また社長の鈴木さんによると、この仕事は段取りが一番で、どの方向にどの順番で倒すかによって、搬出時の手間や木の傷み具合も変わってくるそうです。段取り次第で収入も大きく変わってくるため、それがやりがいにもつながっていると笑顔で

新月伐採を始めて今年で10年。

おっしゃっていました。林業でも、高齢化が問題になっていいます。しかも労災に備えて支払う雇用保険料が一番高いと言われる程危険でキツイお仕事。にもかかわらず、若い人がやりがいをもつてこの仕事についているのは本当に喜ばしいことです。こういう職人さんがいてはじめて、四季工場の「地域循環型の家づくり」ができる、逆を言えば、お客様から戴いたお金が、四季工房を通じて、こういう職人さんを支えることにもつながっているのです。

このように、四季工房で今は当たり前になっている木材の冬期伐採(新月伐採)と天然乾燥。10年前は、自然の摂理に沿った方法だから絶対良いに違いない！と信じて始めたことでした。それが今は、これがないと四季工房の家ではない！と言える程、不可欠なものになっています。例えば梁に使う赤松。市場品は、養分の多い夏でも伐採されるため、薬剤のプールに漬けることで、木材にアオと呼ばれるカビが生えるのを防いでいます。しかしその薬剤の効果は表面だけ。大工さんがカンナで削ると、下からカビが出てくることもあったそうです。また薬剤漬

たばかりのOBさんの中には「木の色が鉛色に変わっていきのくが楽しみです」と言ってくださる方が多数。木材の冬期伐採・天然乾燥の徹底が、より愛着をもつて永く住んで頂ける家づくりにつながっていることを確信し、これからも松栄商事さんと手を取り合い真摯な家づくりを進めてまいります。

(レポート／二村)

の木材であるが故に、大工さんが木材を刻んでいると、目が沁みたり、皮膚がただれたりしたこともあったとか。知らないところで大工さんの健康被害にもつながっていたのです。しかし今はそんなことも皆無。木材業を営む松栄商事さんが四季工房の家づくりにかける思いを理解し、伐採からやつと1年半経って使える木材になるこのプロセスを守って、全量の木材(杉・赤松)を伐採・乾燥してくれているからです。赤松も冬期伐採を徹底することで、薬剤に漬けなくてもほとんどカビは入りません。そして今では、この木材を使って建てた家が古いもので築8～9年になり、あちこちのOBさんから「木の色がしつとりと鉛色に変化して、家がとてもいい感じになった」というお声を頂戴しています。また家を建て



木が見事に鉛色に変化してきた「いわき展示場」



新月伐採は本当にいいの？

新月伐採について書かれている論文を見つけました。

スイスの学者、アーネスト・ズーリャー氏が1999年にチューリッヒ工科大学の森林科学部門発行の専門誌に発表した論文には、「植物の成長と内部の水の動きには密接な関係があり、月のサイクルが影響を及ぼしている。満月の時期にはより多くの水を吸い上げ、満月から新月にかけては逆に植物の根から土へと水が戻るというサイクルを繰り返している」と記されています。だから新月の時期(下限から新月の間の1週間)に伐った木が、建材として使うのに適した木になるのですね。